

人権協 フィールドワーク

令和4年10月5日（水）人権協フィールドワークとして奈良県御所市にある水平社博物館と、井上天極堂本社の工場見学に行ってきました。3年ぶりの開催は、総勢32名の参加となりました。
フィールドワーク参加者の方に寄稿いただきました。

きずな

第22号
2023年5月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議会

バックナン
バーはこちら



「水平社博物館見学」

コロナでいろんな行事がなくなり外出するのもためらう日々が続く、マスクをする生活もあたりまえになっている今日この頃です。

そんな中でのフィールドワークでした。天気は曇雨でしたが幸いにも傘を広げることもなく見学ができました。

水平社博物館を見学し思うこと、考えさせられたことを「きずな新聞」の紙面に掲載する原稿の依頼があり、久しぶりにパソコンで文字を打ち込んでいます次第です。

水平社を七人で創立し世の中の沢山の人々を巻き込み、凄く影響力で国が動かないなら自ら変えていこうと活動していた

若い人たち、今の世にそんな人達がいるでしょうか。差別されている側では駄目だと環境を変えていく努力を言葉で訴えていき、賛同する仲間を増やして、なおかつ差別する側も巻き込んで社会全体を差別のない世にしよう、と、差別する人も差別される人も同じ人間だとみな平等で自由があり解放的であるべきだと…。

私の両親は地方から出てきて生活のために共働きてきました。幼い頃住んでいた所では共働きの家庭がなくて、近所の方がわざわざ私の母親に「子どもの面倒をみないで働いていると子どもはろくでもない子になる」と言いに来たそうです。その方は、地元の方でした。

親に頼れない母親は子どもを育てるため必死で頑張っていたと思います。それぞれ環境が違うのに、その時その人は私たちのことを思っただけでなく、それだけ環境が違っても、やはり悲しいです。私自身はこれも差別だとらえていきます。

「差別」この漢字の意味を調べたところ、特定の集団に所属する個人や、ある属性を有する個人に対してその属性を理由に特別な扱いをする行為であると書かれています。優遇か冷遇かは立場によって異なるが通常は冷遇、つまり正当な理由なく不利益を生じさせる行為に注目されています。逆差別という言葉もあるし、差別された側がいつ

の間にか気付かずに差別している側になっていることもあり得ます。

差別という言葉がつかわれなくなった時がすべての人が平等であり解放的な世界になってほしいと思います。

「井上天極堂本社 工場見学」

水平社博物館の見学を終え、昼食をとったのち、井上天極堂本社工場を訪れ、くず粉づくりの説明を受けてから工場を見学しました。

工場では七十代の男性の方が「くず粉は血液がきれいになり免疫も上がりお肌もきれいになるよ」と話してくれました。その方の顔を見るとお肌すべすべでしたよ。早速、くず粉をお土産に買って帰りました。

(Y・F)

＜参加者の声＞

◆水平社の歴史などを学び、改めて差別の無い社会の実現に協力、努力したいと思った。

◆今日は参加して昔の人のパワー、すごさにそして現状をかえていこうと頑張る力、行動しないと何も変わらない。私も私なりにがんばりたい。

◆知らないことを沢山知ることができとても楽しくよかったです。工場見学もいいチャンスを頂きました。次の機会が楽しみです。食事美味しかったです。



人権啓発講演会

10月24日（月）、あいぴあ泉南で「2022人権啓発講演会」を開催しました。今回は、講師に北口末広さんをお招きし「激変する社会と差別身元調査～IT革命の進化と差別の現状をふまえて～」というテーマでお話をさせていただきました。

講演では、最初に、ネット社会でいかに多くの個人情報データが収集されているかについて話されました。ある人が押した「いいね」ボタンの68個を分析すれば、その人の属性や支持政党などのプロフィールがある程度わかることや、その人が好むニュース・同じ考えを持つ人の情報ばかりが提供されるようになり、思想傾向や価値観がより一層過激化していくこと、人権や差別の分野でも、偏見や予断であったものが偏った情報を与えられることにより確信的なものに変化していくというように、情報操作が差別意識の形成に影響を与えていると警鐘を鳴らされました。

また、ネット上の個人情報データで差別身元調査を行うことが可能であることや、個人情報を重ねることにより単なるデータが「センシティブ情報（思想・信教・本籍地・犯罪歴など）」に変化し「社会的差別を受けうる情報」になりうること、さらにこういった情報が結婚や就職での身元調査に利用される可能性があることにも言及されました。

最後に、部落差別事件の99%以上はネット上で起こっている、就職時の身元調査だけでなくあらゆる身元調査を全国的に禁止していく必要があると話されました。

本人の能力や人格などではなく、出身地や国籍などを理由に社会から排除されるようなことはあつてはなりません。「身元調査は差別行為・人権侵害であること」を認識し、私たち一人一人が偏見や差別意識をもたないよう心がけていきましょう。



参加者の声

◆位置情報だけで、その人の趣味・性別・生活がわかってしまうこと、履歴書のメモの内容等、興味深い内容ばかりの講義でした。

◆自分と似た価値観の意見に多く触れることで、自分は正しいと思いついて、自分という話を聞いて、自分の価値観や偏見を見直していくことが大切だと改めて感じました。

◆就職時の身元調査がいまだに行われているということに悲しくなりました。対面はもちろんのこと、ネット上での発言も気を付けなければならぬと感じました。

砂川小学校で校区の集いを実施しました

10月27日、和泉市職員の高根根望さんに「僕の宝物」をテーマに友達の大切さについて講演していただきました。高根根さんが義足である自分を受け入れることができるようになるまでの経緯や、ありのままの自分を認めてくれる友達との出会いについてのお話を子ども達は真剣に聞いていました。高根根さんから「困っている人をまもれる人、違いを認め合える人になってください。」とメッセージが贈られると、子ども達は力強く返事をしていました。

◆みなな違うところがあっても、人それぞれで、自分の夢をかなえたいと思っていました。

◆これまで違いで逃げつづけていたけど、これからはおそれずにいこうと心の中で決めました。

◆高根根さんは一人であんな前向きなだけではなく、友達がいたからこそ前向きに生きれるんだと思っただ。だからぼくは友達を大切にしようと思った。

◆いやなことを気にするなら今の自分をぞんぶんに楽しむんだということを知れてすごく嬉しいし、友達との友情と、あきらめないことはいいことだとわかりました。

◆私も自分のいやなことを吹き飛ばして気にせずいきたいです！

◆「ちがいでいいな」と今日思った。



中学校区の集い

校区人権協では、小学校やPTAと連携し、地域子どもからおとなまで幅広い世代が人権について学ぶ機会を提供しています。今年、中学校からPTAと一緒に集いを実施できないかという声をいただき、初めて中学校で校区の集いを開催しました。

10月6日、中学校では初の試みとなる人権啓発講演会を信達中学校で開催しました。

講師には、学校からの希望で、human note

(ヒューマンノート)さんに来ていただきました。

講演では、力強い歌の

パフォーマンスやケニアでの支援活動の様子などをお話ししていただきました。リーダーの寺尾仁志さんからは、障害のあるなし、人種の違いに関わらずお互いを知ることの大切さや夢をもつことの大切さについてもお話いただきました。

講演後に、先生が「子

ども達のためにいろんなことをやってあげたいし、やる気になれば実際にやれるんだということを実感するいい機会となった。これからも子ども達にできることはやっていきたい！」と言っていた言葉が印象的でした。



生徒達の感想

◆human noteさんの歌声はすごくキレイで思いもすごく伝わってきます。

その歌にこめられた思いがわかります。アフリカのケニアの子、障がいをもった子、いろんな人の心を動かせるような感じがして最高でした。しかもhuman noteのリーダーの寺尾さんが夢を持ってと言われ歌手になりたいと決意したことみたいに、ぼくも夢を持ち、その夢をがんばってかなえようと思いました。



◆human noteさんが体験

した話を聞いて思ったことがあります。自分の夢は歌手ですが、あまり自信がなく恥ずかしく、いつも夢はないと言っていました。だけど、夢を持つことの大切さを知りました。そしてその夢をお

してくれる人がこの世の中にいるからあきらめてはいけないのだということとをこれからも大切にしていきたいです。最後に歌ってくれた「スニーカー」の歌詞に入っていた「一步踏み出す、また立ち直ればいい」というのが心に残っています。これからも自信を持ち、生きていきたいと思えます。夢を自分はこれからも追っていきこうと思います。

◆幼稚園、小学校でhuman

noteさんの歌を聞かせていただいたことがありました。特に「フミダシテ」は幼稚園の頃にきいたときからずっと覚えて

いました。でもその頃から成長した今、曲を聴くと感じ方が全く変わって

いました。歌詞ひとつひとつがとても素敵で心に響きました。

◆歌やお話を聞いてとても心にじーんときました！私は母子家庭で育っているので仕事、料理、家事をしてくれている母に感謝を伝えようと思えました！話を聞いていると私もたくさんの人に救われているなと思、人のつながりってすごくいいなと思いました。素敵な歌とお話を聞かせてくださり、本当にありがとうございました！



市民交流センターまつり

地域の交流・つながりが広がりますように...



11月12日、市民交流センターで「市民交流センターまつり」が3年ぶりに開催されました。当日はお天気も良く、約400人の方々の参加がありました。よさこい踊りやペルダンス、センター利用団体による展示販売ブースなど盛りだくさんの内容で会場は大いに賑わいました。私たち人権啓発推進協議会もフランクフルトを販売しました。久しぶりに地域の方々と触れ合える機会となり、非常に楽しい時間を過ごすことが出来ました。今後もこういった活動を通じて交流の輪を広げていきたいと思えます。

人権週間 市民の集い

12月4日(日)、文化ホールで、人権週間「市民の集い」を開催しました。第1部では、自閉症の息子とその家族、そして地域の人々との交流を描いた映画「梅切らぬバカ」を上映しました。第2部では、大阪公立大学大学院現代システム科学研究科准教授の三田優子さんに「生きづらさを認め合うまちづくりへ」というテーマで講演いただきました。

「桜伐(き)る馬鹿、梅伐らぬ馬鹿」という諺がある。

桜は枝の切り口から腐朽菌が入り、花付きが悪くなるのでむやみに幹や枝を伐ってはいけない、一方梅は放っておくと四方八方に枝が伸びるので、剪定し小枝の多い樹型にすれば花付きが良くなることから、「それぞれの個性に応じて手入れしてあげる必要がある」という意味で使われる。

Light&ダイバーシティという言葉が広く知られ、職場や学校・地域で様々な取組みがなされるようになった今日、映画ではドラックドラゴン塚地武雅さんの圧倒的な演技に魅入ってしまったが、わざわざ手入れしてあげなくとも、「ありふれた毎日が人生の宝物」と誰もが実感出来る社会になることを願わずにはられない。

(西信達校区)

柿本 繁雄



参加者の声

◆地域の人々とのまじわり方や出会い、心の持ち方の大切さを切に感じました。

◆押し付けではなく、課題を提供してくれる映画、心の中に温かなものを置いて行ってくれたような感じでした。「偏見を捨てて仲良くなればなんとかなるさ」と言ってくれているような三田さんの講演、わかりやすく良かったです。

◆実際に障害者の人々と話を交わして、その人たちがどう思っているのかをじかに感じたいと思います。

人権週間 人権作品展・コンサート



11月22日～11月27日、イオンモールりんくう泉南イオンホールにて、市内の就学前施設や、小・中学校の子どもたちのポスター、習字、絵画、市民の方々にご応募いただいた「じんけん写真・標語」、識字教室・日本語教室のみなさんの作品などを紹介した人権作品展を行いました。期間中は1,800名の方々にご来場いただきました。会場では、子ども達が、自分たちの作品を誇らしげに紹介し、その様子を嬉しそうに撮影する家族の姿も見られました。多くの世代を通して人権の大切さを感じる機会となりました。

11月27日には、同

会場にて、有田直子さんとそのご友人でバリアフリーについて考える活動をしておられる方々による「バリアフリーコンサート」～みんなちがってみんないい～を開催しました。会場は満席で、歌とギターの演奏や身近なエピソードを交えた障害者理解や多文化共生についてのお話などが披露され、終始アットホームな雰囲気で心温まるコンサートとなりました。

参加者の声

◆家族が障害者で差別やいじめで悲しい思いをしてきました。このような人権作品展をしてもらえると心強く思います。

◆「みんなちがってみんないい」今日参加して改めて感じました。それぞれが生きやすいまち、自分らしく生きていまいち、一人一人が心をよせあい認め合うまちになればと願います。

◆こういう輪が広がるとを願っています。

編集後記

コロナ禍での「きずな 22号」発刊。世界的に様々な人権、差別問題が、多発しています。その問題点を研修や講座等に参加・学習して、皆で語り合い、より深い、より多くの見方、考え方を集め、広めていくことが「きずな」の使命です。それには、泉南市人権啓発推進協議会が開催しています「企画実行委員会」や「おしゃべり会」に、多くの老若男女の方々にご参加いただくことが一番(^^)より良い人権社会にしていきたいと思います。

(企画委員会 編集委員)